

## 第3回恵庭市総合計画審議会 会議録

日 時：平成22年8月26日（木） 13:00～15:00

場 所：恵庭市役所3階 第1委員会室

出席者：委員9名、副市長、教育長、事務局4名、部長8名（企画振興部長、地域整備室長、生活環境部長、子ども未来室長、建設部長、教育部長、水道部長、消防長）、課長1名（基地防災課長）

### 1. 開 会

### 2. 会長挨拶

～会長より開会にあたっての挨拶～

### 3. 審 議



（1）基本目標3「学ぶところと元気なからだを育むまちづくり」について

（2）基本目標4「生活環境が整い安全安心でゆとりあるまちづくり」について

～事務局より基本目標1及び基本目標2を説明。以下の質疑応答が行われた～

#### ○夢創館の活用について

（委員）

夢創館の駐車場は5～6台分しかない。ほとんどの利用者は車で来場しているので、夢創館利用者に対して隣接する島松駅の市民駐車場使用料の値引きを行うなど、利用率を上げる工夫が必要。

（市）

各種会議等でも同様の意見を頂いているので、活用に関して今後工夫したい。また、有料化以降、駐車が少なくなってきた。有料化の駐車場整備を行っているので、データを揃えた上で、活用策を考えたい。

#### ○施設の複合利用、多世代利用について

（委員）

公民館、地区会館、子どもセンター、コミュニティスクールなどの違いはどこにあるのか。

(市)

地区会館は市内に 11 館あり、小学校区を基本に整備している。地域住民が地域活動、会議、集会に利用できる施設になっている。公民館は社会教育法に規定する施設で、市内に 1 館あり、集会室にはステージがあるなど、さまざまな活動が行われている。コミュニティスクールは放課後活動で、恵み野・島松の 2 箇所地域協力のもとで実施され、将来的に拡大したいと考えている。

(委員)

色々な名称があり、機能も分かれているのだろう。恵庭市は、教育というものを重視し熱心に取り組んでいるが、目標 22「いつでも・どこでも・だれでも学習できる環境づくり」という言葉のとおり、学び合い互いに協力できる仕組みが必要だ。建物の名称が異なっても、中では実質的に一緒に使える施設が本来は望ましい。例えば、コミュニティスクールや学童クラブなどを分けて考えるのではなく、全体を一緒に使いお互いに交流しながら学びあえるという考え方が大事だ。施設や内容を個別化し、高齢者と子どもを分けるのではなく、互いの世代で学びあうことを基本的な考え方とすべきだろう。基本方針で世代で学びあうことを目指していくという文言を入れていただければと思う。

(市)

黄金地域交流センターは、子どもセンター、老人憩の家、図書機能を含めた施設。今後は複合化が施設整備の流れとなる。地区会館の改修等、時期を捉えながら、多世代の交流が可能な施設整備を進めたい。

(委員)

施設の複合的な利用、多世代での利用を基本方針の文言に入れていただきたい。

## ○カリンバ遺跡の活用について

(委員)

国の重要文化財を持っている市町村は少ない。カリンバは重要文化財で、もっとその価値を認めるべき。まちを全国に知らしめるほどの価値があるが、生かしきれていない。歴史学習ができる拠点となる建物の建設、歴史シンポジウム、歴史学会の開催誘致、子どもの竪穴式住居の宿泊体験、カリンバ恵庭音楽祭、カリンバ恵庭美術考古展など、利用価値も工夫次第で高まる。文化には波及効果、人を集める効果があることを認識し、大いに利用を検討してもらいたい。

(市)

平成 20 年に基本構想を策定し、平成 21~22 年度に保存管理計画を策定し、将来的にはガイダンス施設、体験施設へという見通しを持っている。すぐに整備することは難しいが、意見を伺って、施設整備がなくてもカリンバの冠をつけて市民へ啓発や市外へアピールすることは大事と思った。取り組みを検討したい。

(委員)

道の駅等を利用して恵庭市の歴史の記録・保存の取組みを市外者へアピールができるかもしれない。

## ○児童の学力・学習及び体力運動能力の状況について

（委員）

学校教育基本方針の策定・推進に係る、学校教育の基本的な取組みを伺いたい。全国の学力テストや体力測定において、北海道は全国水準をかなり下回っている。要因についてどのような分析をしているのか。北海道全体の取組みの中であって、恵庭市はどのような特色あるプログラムで効果を生み出してきたのか。

（教育長）

学力・学習状況調査については、昨年までは全数調査、今年は抽出調査を実施している。報道されているように北海道はかなり水準が低く、北海道教育委員会も改善プログラムを作成し、各学校で実践するよう指導している。恵庭市は、子どもたちは頑張っていて、抽出校のデータを分析した限りにおいては、かなり高い位置にある。

調査後の分析については、データにもとづいて各学校で実態の把握、改善プログラムの作成、改善プログラムに基づいた実践、検証を行い、翌年に分析をし、改善プログラムの改善を行うことになっている。

恵庭市教育委員会としては、学力・学習状況調査も体力運動能力調査も、子どもたちに学習習慣や生活習慣が定着することで改善につながるというのが基本的な考えであり、各学校に取り組んでいただいている。

（委員）

体力の面で、北海道は冬場の屋外グラウンドの利用が少なく屋内にこもりがちである。本州の児童は一年中屋外で遊ぶが、北海道は冬季の過ごし方の影響のためか夏場も外に出なく、公園でも遊ばない傾向が出てきている。体力運動能力調査の結果は、そうしたことが要因にあるのではないか。学校の休み時間に、運動場や屋外で工夫して好きな遊びをさせるわけにはいかないのか。

また、北海道は宿題を課すことが少なく、家庭内学習を義務付けていないことが多い。良いかどうかは分からないが、私は学習塾に行くよりも家庭内学習で毎日決められた時間機に向かうのが望ましいと思うが、どのようにお考えか。

（教育長）

体力運動能力の問題は、恵庭市は第 1 回目から全校で調査に取り組んでいる。調査結果が出た段階で、学力・学習状況調査と同様に、各学校の子どもたちの状況を分析し、学校全体の教育活動において、例えば一日の学校生活の中で、大休み、昼休み、放課後をどう活用するかという、改善プログラムを作成している。先ほど冬場の活動について話ができたが、道教委では手軽に取り組めるなわとびに注目している。子どもたちの体力、運動能力の向上に効果があるとされ、冬季は屋内体育館でもできる。どういう形で教育課程に取り入れられるかを検討していて、今日開催された教頭会でも提案したところだ。

宿題については、先ほど申し上げた学習習慣の定着の取組みの一つとして、数年前から、学年×10分以上の家庭学習を家庭の協力も得ながら行っている。

宿題と銘打つ場合のほか自学自習として学習を課す場合がある。自分で課題を見つけてその課題を自分で解決する力を養うが、そのために意欲が必要で、意欲と習慣をつなげる取組みを各学校にお願いしているところだ。

(委員)

上位地、先進地の事例は、要因分析に有効だろう。どこに差があるのか把握し、良いところは取り入れてもらいたい。

## ○仲よし子ども館について

(委員)

「仲よし子ども館の充実」が後期計画の素案に見られない。3歳児と保護者が週1回集まっていた活動で、長い間続いてきたものだが、中止になったということか。

(市)

保健福祉部子ども未来室が行っている子育て支援センター事業に一元化したことによる。これまで行っていた仲よし子ども館の要素の一部をうまく組み合わせながら移行した。

(委員)

目標20に「2歳児の受入れ」という文言が見られるが、このことも関係して仲よし子ども館が廃止になったという受け止め方でよいのか。

(市)

目標20に「子育て支援事業の一環として2歳児の受入れや幼稚園終了後の預かり保育を行うなど、幼稚園を取り巻く環境も変化してきています」という表現があるが、これにもとづいて仲よし子ども館を見直したということではない。従前は幼稚園は3歳児未満の受入れは基本的に行っていなかったが、通常であれば保育所で担う2歳児も受入れをすると変わってきていることを示している。仲よし子ども館については子ども未来室に移管し、子育て支援センター事業として、現在週1回、屋内活動を中心とした活動に切り替えて、仲よし子ども館の機能の一部を引き継いで実施している。

## ○子どもの個性について

(委員)

目標20の「子どもの個性を伸ばし・・・」について、子どもの個性は短時間見てもわからない。子どもを育てている親が子どもを一番見ている。親と学校との関係がうまく行かなければ子どもの個性が伸ばすことは難しい。学校と親の関係が最近希薄になっているように見える。親は先生を信頼せず、先生も親を敬遠しているように思える。私は商売をしていく上で、苦情が多いお客さんに一番対応するのが商売の鉄則と考えている。相手の考え方、思いをきっちりと受け止めることが商人の原点。教

育も同じで、難しい親であるほど教育者や地域がどう関わるのかをしっかりとしなければ個性ある子どもを育てるのは難しい。「特色ある学校づくり」とあるが、恵庭の学校教育の特色をここでしっかりだして何をするのかを検討いただきたい。子どもたちを個性を持って育てて、将来の恵庭を背負って立ってもらいたい。

（教育長）

学校にいるときの子どもの姿は親は見え、家にいるときの子どもの姿は逆に先生方には見えない。互いに子どもを真ん中にして見えるようにしてほしいと学校にお願いしている。一つ目は、電話で済むこともあるが、そうでない場合には顔と顔、目と目を合わせて話すこと。二つ目は、子どもと向き合う時間をとって、心配事があれば、互いに連絡しあう。三つ目に、一週間の子どもの様子を書いて学校に提出し、先生は一週間の様子を書く。基本は子どもの素晴らしいことを見つけてほめてあげる取り組みをしてもらっている。四つ目は、子どもが育つためには多くの大人がその子どもに関わるのが大前提と考えている。学校教育、社会教育全てで、子どもに関わりたいということで、一貫して取り組んできたのが、子どもたちに様々な体験活動をさせてあげ、それを通して、人と人との触れ合いのなかからコミュニケーション能力をしっかりとつけてあげたい。教育委員会が所管している全ての生涯学習の中で子どもたちに関わってもらいたいし、様々な関わっていただいている。貴重なご意見なので参考にしたい。

（委員）

地域社会が子どもを育てるとい言葉が多く見られるが、子どもは親が育てるのが根本で、それを支援するのが地域社会である。親が子どもをしっかりと育てるとい点がぼけてきていることに危機感をもっている。

## ○スポーツの振興について

（委員）

恵庭市として、恵庭市民はスポーツをする義務があると位置づけているのか。

（市）

義務とはしていないが、広くスポーツは振興していきたいという考え方はもっている。

## ○コンパクトなまちづくりについて

（委員）

恵庭駅前控えめとを感じるが、駅を中心にまちづくりを進めるのは大事なこと。主要施策にコンパクトなまちを目指していくとあり、内容がかなり変わっている割には、基本方針が変わっていない。コンパクトなまちづくりを目指すことを基本方針の多くの素案に入れるべきではないか。

二点目に、鉄道駅を中心とした恵庭駅西口の再開発と恵み野駅西口の開発は両方可能であり、是非このまま記載していただきたいが、「既成市街地の整備」や「新市街地の整備」という言い方でいいのか。前期は、区画整理事業をやっていこう、市街地を広げていこうということであったろうが、後

期はコンパクトなまちづくりを目指すと考え方が大きく変わっている。二つの主要施策をまとめて拠点形成するなど、地域中心を考える中で大きな考え方を示し、恵庭駅や恵み野駅の周辺再開発を進めていく、などと分かりやすくしてもらいたい。

三点目として、「鉄道駅周辺に都市機能の集積」とあるが、都市機能があるということは人が住むということ。施設だけ駅を中心に集まるのではなく、人が駅の近くに住み、歩いて暮らす、安心して住めることが大事なこと。恵庭駅は東口に病院があるが、非常に大事である。ほかのまちには病院が郊外に行き、生活に支障がでている。このような環境を大事にして、都市機能の集積だけでなく、都市及び居住機能の集積として、駅の再開発をしながら便利なところに人が住める環境を作っていくことが大事と思う。

(副市長)

主要施策3「地域まちづくりプロジェクトの推進」という表現をしながら、ご指摘のあった主要施策1, 2が以前とほとんど変わっていないのはご指摘の通りだ。せっかく関連する都市計画マスタープランでも、コンパクトなまちづくりと方針をかなり変えていくという流れがある。他の委員のご意見をいただきながら、今一度策定委員会でも修正した上で、また皆様にお諮りしたい。

## ○地域活性化協議会の委員について

(委員)

目標27の3「地域まちづくりプロジェクトの推進」の中に、「(仮称)地域活性化協議会を設置」とある。会議構成員は団体推薦が主なのか、一般公募なのか、あるいは市民から抽出するのか。

(市)

この地域活性化のイメージは、コンパクトなまちづくりとして、3駅を中心に地域拠点整備をし、併せて地域拠点について活性化を図るというもの。活性化の検討は、従来は行政が主体になって協議していたが、今後少子高齢化を迎え都市を維持するためには公共だけでは困難との考えがあり、これを受けて、恵庭市においても、住民あるいは事業者、行政が一体となって協議会を作る。協議会では、地域を活性化するにはどうするのか、住民の自発的な意見・施策にもとづいて行政が何をすべきなのか、3駅中心の地区ごとに検討し、具体的な政策につなげたい。

(委員)

協議会の手法の一つに、市民討議会(プラーヌクスツェーレ)がある。住民基本台帳を活用して、市民を無作為抽出し、色々な立場の人に集まってもらい活発な議論をしてもらうもので、おそらく望ましいあり方だろうと私たちの団体も実践している。団体推薦や一般公募も必要だが、声なき声であるサイレントマジョリティをどう扱っていくのかが肝になる。構成員の選定に努力いただきたい。

(市)

参加メンバーのイメージの基本は地域の住民であるが、そのほか、商工会議所、町内会、商業者、市民団体、消費者、郷土史愛好家、学校、PTA、大学院、あるいはメディアと幅広く集まり、色々

な意見をいただき、まちづくりにつなげたい。

(委員)

色々な人が集まると、遠慮や言いにくさが出る。あるいは、例えば一般消費者と事業者のイメージが違うので発言しにくい等のこともあるだろう。実際にそこに入って暮らすと考えている人、事業者がどうやっていくことがよいのか、居住する人はどういうまちであれば住みたくなるのか、など区分を土台に（部会のような構成で）、駅を中心としたコンパクトシティをどう作りあげるのかを議論したほうが、本当の意見が得られるのではないか。

(市)

協議会の実施方法については、一つの決まった方式で運営していこうとは考えていない。ワークショップ型、専門のコーディネーターが主導する型、全員参加のプラットフォーム型、開発前提とするディベロッパーなど、議題の中身や進行度合いによって複数絡み合わせながら運営していきたい。

## ○まちの一体化、都市計画道路、受水量について

(委員)

コンパクトシティとして住みやすいまちづくりを基本にしているのは結構だが、島松と恵み野の一体化については、この中に書かれているようにまちづくりを進めながら、交通の利便性は道路でつなげようとしているのか、具体的な開発は当面保留し、恵み野西口の開発を次期のものとするにとどめるのか、将来の人口計画から一体化はないのか。

目標 31 に「地域間の連携を図る」とあるが、都市計画道路としての恵み野と島松をつなぐ道路建設を先行的に進めるつもりがあるのか、それとも全般的な話なのか。

関連してシューパロダムは人口計画が変わることにより影響はあるのか。建設した分は取り返しがつかないが、水量との不整合もあるだろうが、その考えをききたい。

(副市長)

島松を包含したまちの一体化については事実上困難といわざるを得ない。都市計画マスタープラン、整備・開発・保全の方針という千歳・恵庭圏で設定している市街化区域の問題からして、人口が伸びない状況であれば、島松と恵み野、西島松地区全般に住宅系も含めた開発をして、市街地を面的につなぐことは困難である。これも大きな理由として、3 駅を中心としたコンパクトなまちづくりへ移行していく流れがある。道路、その他市内の連携の検討になってくるので、都市計画道路の見直し、その他を含めて今後対応していく必要がある。

(市)

都市計画道路の整備計画については、市街化区域内の未整備の道路を対象としている。ご指摘の団地中央通りは市街化区域内については整備されているので、後期 5 ヶ年の中では位置付けはしていない。

(市)

現在シューパーダムを建設中である。石狩東部水道企業団より、恵庭は1日6,600tを平成25年から受水することになっている。人口が当初の見込みよりも伸びていなく、余る恐れがある。恵庭の場合は漁川の水、1日24,000 m<sup>3</sup>を石狩東部水道企業団から受水する契約になっている。そのほか、市独自で浄水場をもっている。いずれにせよ、シューパーダムから受水するときには、市が独自につくっている浄水場の利活用について検討していくことになる。シューパーダムは平成25年完成予定で、2年の完成延期を打診されているが、延びても27年度からは受水できる体制になっている。人口の伸びと今作っている浄水場の利活用を含めて今後検討したい。

(委員)

自前の浄水場をシューパーにあわせて、更新をしないで切り替えていくかということですね。

(市)

浄水場を切り替えるか、廃止するか、を含めて検討したい。

## ○案内標識の多言語化について

(委員)

目標33の「道路沿線の美化とまちの案内標識を充実」だが、北海道は観光を目的に、東南アジアからの人が多く訪れている。そういう動向に対応しているか。

(市)

恵庭市内の標識については、日本語表記とローマ字表記で統一しようという計画があり、実施している。ただ、10年ほど前から、札幌を含めた観光地を多く持つ自治体で、韓国語表記や中国語表記が必要という認識で、整備を進めてきている。しかし、恵庭市においては、十分な宿泊施設があるわけでもなく、中国やロシアからの宿泊客が多いわけでもない。札幌に向かうルートとして、中国語表記、韓国語表記の整備について、石狩管内の首長会議で話題になるが、意見が統一するに至っていない。現行の恵庭市としては、観光の動向等を意識しつつ、現在持っている日本語表記とローマ字表記で進めて行く計画である。

(委員)

カーナビゲーションも普及し、ドライブをするには非常に便利な状況になっている。何年か後には、千歳で降りてレンタカーを借りて、恵庭にちょっと立ち寄ってみるという需要があるかもしれない。

(委員)

今、観光客が来ていないから必要ないだろうというのではなく、先行してやっておくことが必要だ。中国語や英語を加えて表記するのに莫大な費用がかかるわけでもない。観光地がないからいらぬということではなく、逆にないからこそ、道の駅の表示など先行投資しておくべきだ。札幌と空港の中間にあり、道の駅も大きな駐車場を備えていて、立地条件は恵まれている。



(委員)

千歳空港から札幌駅まで 1040 円かかるが、恵庭駅で降りると 1020 円でいける。20 円の問題ではないが、そういう風に恵庭に立ち寄るといふ発想が今まで無かったので、今後は鉄道の駅の拠点づくり等も含めて考えてみるべきだ。ターゲットをしっかりと絞って戦略的にやればよい。

## ○自主防災組織について

(委員)

自主防災の取組みについて、前期で町内会の自主的な取り組みとして推進しているところだが、具体的な推進策を聞きたい。

(市)

63 町内会中 16 町内会で自主防災組織をつくっていただいている。出前講座等で PR し、普及促進に努めている。町内会によって温度差があり、年に何回も開催しているところもあれば、腰が重いところもあるが、今年度の出前講座の実施回数は既に昨年度を上回っており、平均して週 1 回ペースで実施している。

## 7. 閉 会